

京都 精神科医療の 歴史

京都・岩倉に大雲寺というお寺があります。

平安時代の中期、ある人がこのお寺に湧き出る泉の水を飲んだら、こころの病が治ったことから、病になった人々が霊水を求めてこのお寺を訪れるようになったといわれています。

大雲寺は、織田信長によって焼き討ちされますが、江戸時代になって再建され、こころの病に霊験あらたかであるという噂が広まり、岩倉にこうした患者さんが集まりはじめたそうです。

遠くからくる患者さんたちは、境内や周辺の茶屋に宿泊して、大雲寺に通っていました。

明治8年、南禅寺の一角に、京都府が日本最初の公立精神科病院を設立しました。

また、岩倉にも精神科病院が誕生し、精神障害の方を宿泊させていた保養所（茶屋）と協同して治療にあたる世界でも珍しいコロニー型の医療施設が運営されていました。

